【単年度】東海道「箱根八里」における自転車利用環境創出社会実験（静岡県三島市）

1. 実験概要、留意すべき項目

- 東海道一の名所である「箱根八里」の街道・道路（国道1号、神奈川県道732号）資源の観光化を促進し、先進的な観光地域づくりに向けた安全・快適なアクティビティによる観光地域の形成のため、日本遺産「箱根八里」を活用したサイクルツーリズム（自転車旅）の可能性について検証する。
- バイパス整備後の旧道の活性化、安全な走行空間の確保、および街道観光の促進につながる実験となっていること。

2. 実験内容、実験結果

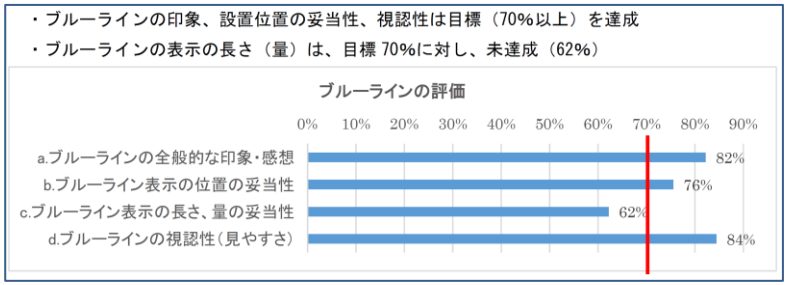
【安全、快適な走行環境の創出】

① 旧道へ誘導するサイクリングの試行⇒旧道への誘導にはブルーラインが効果的

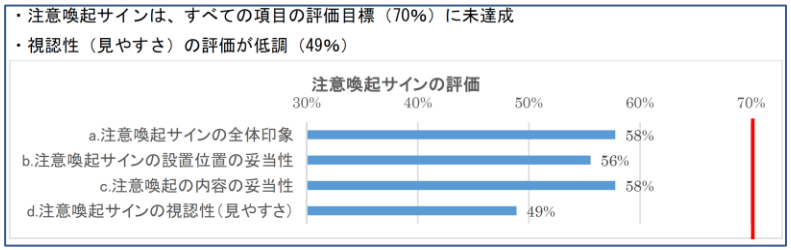
② 案内誘導サインの視認性、妥当性等を調査⇒文字量が多い、設置場所等に工夫・改善が必要

③ 路線バスに車載ラックを設置、満足度を調査⇒満足度・リピート意向は高い、バスの定時運行に影響

ブルーラインにより旧道へ誘導



ブルーラインの評価



注意喚起サインの評価

車載ラックに取り付け

自転車を固定して輪行

3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
社会実験の実施をもっと告知して、自転車に乗らない人にも取り組みをしってもらう必要がある。	ポスターの替わりにラミネート加工したPOPを各施設（バイシクルピットや観光案内所等）に張り出した。
バイシクルピット等でアンケートを実施していることが分かりにくいため、アンケートの実施をもっと告知するべきである。	アンケート実施中であることを自転車のラック付近に掲示するとともに、窓口やパンフレットの配架場所付近にPOPを立てて表示した。

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
アンケートの結果、注意喚起サインが見にくく、視認性に欠けることが判明した。	注意喚起サインのピクトグラム化、文字数制限、路面表示化等を行う。
箱根八里では、伝統的な景観への配慮から、案内誘導サインの設置が難しい所が多い。	サイクリングマップやインターネットなど現地以外で紹介する
施設管理者が自転車に関する知識が少ない。	マニュアルを作成して施設に配布する。
観光サイクリングでは、箱根八里は急勾配、交通量が多い、道路幅が狭いなど、ハードルが高い。	別ルートへの誘導、紹介、道路空間再配分の検討等を行う。
路線バスの輪行には、区間、台数、事前予約が必要など、制限がある。	本格実施に向けて継続的に検討を行う。
SNSの発信数、フォロワー数が少ない。	イベント等を継続的に実施し、SNSで発信する。
サイクリング団体、専門店、ツアー実践者との連携が少ない。	団体の交流機会を設けるとともに、自転車専門店やツアー実践者などと連携したイベントを実施する。

5. 今後のスケジュール

- 令和2年度：関係機関協議
- 令和2～4年度：路線バスの輪行の試行、効果検証
- 令和4～5年度：自転車活用推進基本構想の策定
- 令和5年度頃：本格実施

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- サイクリングにおける峠越えやテーマ性の高い街道である本実験地の事例は、全国の中山間地域等における地域活性化策の参考事例となる。
- 自転車が走る路肩部分は、繁茂する雑草等により走行環境が悪化し、適切な道路維持が求められることから、道路管理者、自治体及び関係団体並びに地域住民等の連携による維持管理の仕組みづくりの検討が必要である。
- 地方版自転車活用推進計画は、県単位、市町単位での策定となっているが、本実験地の事例は、県境を越える広域連携の取り組みであり、他地域における自転車を活用した県境をまたいだ取り組みの参考事例となる。